

新興市場銘柄

1. 評価対象企業（29 社）

夢真ホールディングス、出前館、セリア、G A technologies（新規）、ラクス、ユーザベース、UUUM、P K S H A Technology、マネーフォワード、セプテーニ・ホールディングス、メルカリ（新規）、チームスピリット（新規）、K u d a n（新規）、カオナビ（新規）、サンバイオ、東映アニメーション、弁護士ドットコム、イトクロ、メドピア（新規）（注）、N I T T O K U、自律制御システム研究所（新規）、ハーモニック・ドライブ・システムズ（再評価）、ウェルビー、フェローテックホールディングス、ベルトラ（新規）、ワークマン、ナカニシ、C Y B E R D Y N E、バリュエンスホールディングス（新規）
（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）当社は、マザーズから東証第一部へ市場変更した（2020 年 9 月）。

2. 対象企業の選定方法および評価方法

(1) 対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q・Board およびアンビシャスの 5 つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額が上位（注 2）であって、しかもその企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定数以上の 29 社（昨年度 28 社）とした。なお、29 社の内、継続評価企業が 19 社、新規評価企業が 9 社、再評価企業（2 年以上前に対象とした企業）が 1 社となっている。

（注 1） アナリストへのスコアシート発送時（本年 5 月下旬）、上場後 1 年未満の企業は対象から除外した。

（注 2） 昨年 11 月下旬時点の時価総額を基準とした。

（注 3） 本年 1 月当協会が証券会社等へ新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

(2) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	5
計		13	100

（注）評価項目の内容および配点は 149 頁参照

(3) 評価実施アナリストは 73 名〔昨年度 60 名〕（所属先 32 社〔昨年度 28 社〕）である。（150 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（148 頁）参照）

- ① 本年度は、自主的な情報開示の分野において 1 項目を新設し、評価を実施した。また、新規評価（9 社）および再評価（1 社）の企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.2 点（昨年度 62.7 点）、総合評価点の標準偏差は 9.5 点（昨年度 9.4 点）であった。

- ② 総合評価点については、80 点台が 2 社（昨年度なし）、70 点台が 11 社（昨年度 6 社）、60 点台が 9 社（昨年度 11 社）で、60 点台以上となった企業は昨年度より 5 社増加した。他方、50 点台の企業は 5 社（昨年度 8 社）、40 点台の企業は 2 社（昨年度 3 社）で、50 点台以下の企業は 4 社減少した。
- ③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%（昨年度 66%）、**説明会等**が 66%（昨年度 61%）、**フェア・ディスクロージャー**が 71%（昨年度 66%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 60%（昨年度 57%）、**自主的情報開示**が 65%（昨年度 57%）となり、全ての分野で昨年度を上回った。
- ④ 一方、全 13 項目の平均得点率を見ると、最高で 73%、最低で 59%となった。昨年度平均得点率が低水準であった次の 4 項目（**説明会等**の 1 項目(d)、**コーポレート・ガバナンス関連**の 2 項目(a)(b)、**自主的情報開示**の 1 項目(c)）については、やや改善した。
- (a) 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」（平均得点率 59%〔昨年度 56%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：40%台 3 社・50%台 10 社・60%台 12 社・70%台 4 社）
 - (b) 「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか」（平均得点率 61%〔昨年度 58%〕）（得点率：40%台 4 社・50%台 7 社・60%台 12 社・70%台 5 社・80%1 社）
 - (c) 「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか」（平均得点率 62%〔昨年度 57%〕）（得点率：30%台 1 社・40%1 社・50%台 9 社・60%台 10 社・70%台 6 社・80%台 2 社）
 - (d) 「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか」（平均得点率 63%〔昨年度 59%〕）（得点率：30%台 1 社・40%台 3 社・50%台 6 社・60%台 8 社・70%台 9 社・80%台 2 社）
- ⑤ 本年度新設した**自主的情報開示**の中の非財務情報関連の 1 項目については、次のとおりとなった。
- ・ 「(左記以外の) 非財務情報の開示に取り組んでいますか」（平均得点率 68%）（得点率：50%3 社・60%台 12 社・70%台 10 社・80%台 3 社・満点 1 社）

(2) 優良企業（上位 3 企業）の評価概要

第 1 位 ユーザベース（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 2 回目〕、総合評価点 81.6 点〔昨年度比+6.9 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社（事業内容：情報インフラの提供、市場：マザーズ（2016 年 10 月上場）、新興市場銘柄としての評価対象：3 回目）は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉86%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（78%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位（83%）、**説明会等**が第 3 位（80%）、**自主的情報開示**が同得点第 7 位（72%）となった。全ての分野の得点率が昨年度を上回り、総合評価点の上昇（上昇幅第 7 位）および順位の昇（2 ランクアップ）につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が最も高い評価となった。また、「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」および「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」も高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルール」の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。なお、四半期ごとの説明会で CEO が経営戦略について説明していることを評価する声、サービスの動向が分かる KPI の継続開示を評価する声、赤字事業の現状の課題、リスク、解決に向けた施策の説明を評価する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」が高く評価されたことに加え、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」も評価された。なお、「収益および財務分

析に必要なデータが十分に記載されていること」についてはトップと 10 ポイントの差が開いた。これに関し、四半期ごとの推移が分かる付属資料や計画のブレークダウンを要望する声、KPI を変える場合過去 2 年程度の新 KPI の遡及算出を要望する声が寄せられた。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトにて、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていること、英文による情報提供を行っていること」が最も高い評価となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」も評価された。これらの結果、この分野において他社と共に第 1 位となった。なお、説明会の動画や質疑応答の概要のウェブ開示を要望する声が寄せられた。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていること」が最も高く評価された。また、「資本政策、株主還元策、キャッシュの用途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていること」も高く評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。なお、株主還元および M&A の方針（規模感を含む）の説明を要望する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「非財務情報の開示に取り組んでいること」については高く評価された。ただし、「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」については、トップから 16 ポイントの差をつけられた。
- ⑦ 以上に加え、コロナ禍でのスムーズなオンライン対応、透明性に配慮した四半期オンライン説明会を評価する声が寄せられた。

第 2 位 弁護士ドットコム（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 80.6 点〔昨年度比+8.3 点〕、昨年度第 6 位）

- ① 同社（事業内容：ウェブでの弁護士向け営業支援、一般会員向け法律相談サイトの運営等、市場：マザーズ（2014 年 12 月上場）、新興市場銘柄としての評価対象：昨年度に続き 2 回目）は、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位（83%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 2 位（77%）、**経営陣の IR 姿勢等**（84%）、**説明会等**（79%）が第 4 位、**自主的情報開示**が同得点第 11 位（68%）となった。全ての分野の得点率が昨年度を上回り、総合評価点の上昇（上昇幅第 5 位）及び順位の昇昇（4 ランクアップ）につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」が最も高い評価となった。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も高く評価され、「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」も評価された。これに関し、四半期ごとの説明会で代表取締役社長が経営戦略について説明していることを評価する声が寄せられた。なお、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」については、トップから 8 ポイントの差をつけられた。
- ③ **説明会等**においては、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が最も高く評価された。また、「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」も評価された。なお、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」については、トップから 5 ポイント差の同得点第 6 位となった。これに関して、クラウドサイン関連の開示の継続性を要望する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」および「ウェブサイトにて、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていること、英文による情報提供を行っていること」が共に高く評価され、この分野において他社と共に第 1 位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの用途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていること」が最も高く評価された。また、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていること」も高く評価された。なお、内部統制に関し基本的な情報は掲載されているものの、積極的な攻めのガバナンスについて説明の

余地があるとの声が寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「非財務情報の開示に取り組んでいること」については他社と共に第 5 位となった。なお、「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」については、トップから 20 ポイントの差をつけられた。
- ⑦ 以上に加え、コロナ禍でのスムーズなオンライン対応を評価する声が寄せられた。

第 3 位 メドピア（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 78.1 点）

- ① 同社（事業内容：医師向け情報サイトの運営、薬局支援サービス等、市場：マザーズ（2014 年 6 月上場）（注）、新興市場銘柄としての評価対象：初回）は、**説明会等**が第 1 位（83%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 4 位（81%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（81%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第 7 位（67%）、**自主的情報開示**が同得点第 14 位（66%）となった。
（注）マザーズから東証第一部へ市場変更した（2020 年 9 月）。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」が高く評価された。また、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が共に評価された。なお、「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」については同得点第 7 位となった。
- ③ **説明会等**においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」が最も高い評価となり、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」も高く評価された。また、「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」も高い評価となり、この分野において第 1 位となった。なお、四半期ごとに業績が振れる点についてさらなる説明を望む声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が最も高い評価となった。なお、「ウェブサイトに、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていること、英文による情報提供を行っていること」については、トップから 14 ポイントの差をつけられた。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていること」が第 6 位となった。なお、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていること」については、トップと 15 ポイントの差をつけられた。これに関し、資本政策の明確な提示がないとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「非財務情報の開示に取り組んでいること」が他社と共に第 5 位となった。なお、「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」については、トップから 20 ポイント以上の差をつけられ、平均得点率に達しなかった。
- ⑦ 以上に加え、新型コロナウイルスに対する取り組みについて、より具体的な開示を要望する声が寄せられた。

上記の**ユーザベース**、**弁護士ドットコム**、**メドピア**の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

以 上

2020年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (新興市場銘柄)

(単位:点)

順位	評価項目 総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示
		評価項目4 (配点 35点)	評価項目3 (配点 25点)	評価項目2 (配点 15点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目2 (配点 5点)
	評価対象企業	評価点	順位	評価点	順位	評価点
1	3966 ユーザベース	81.6	1	20.0	3	15.5
2	6027 弁護士ドットコム	80.6	4	19.8	4	15.4
3	6095 メトピア	78.1	6	20.8	1	13.4
4	4397 チームスゼリット	76.2	11	19.0	7	15.0
5	3923 ラクス	76.0	7	18.8	9	13.6
5	6556 ウェルビー	76.0	5	19.3	6	12.6
7	3994 マネープオワード	75.5	7	18.5	10	13.9
8	4435 カオナビ	74.6	3	18.3	11	12.4
9	3491 GA technologies	74.1	9	18.2	12	14.0
10	2782 セリア	72.9	2	18.1	13	11.7
11	6324 ハーモニック・ドライブ・システムズ	72.8	10	18.9	8	13.0
12	7564 ワークマン	72.1	13	19.6	5	11.6
13	6145 NITTOKU	70.4	12	20.1	2	10.3
14	7716 ナカニシ	68.8	16	17.4	14	12.6
15	4293 セブテニ・ホールディングス	68.3	17	15.7	20	13.3
15	6232 自律制御システム研究所	68.3	14	17.2	15	12.0
17	6049 イトクロ	66.3	21	16.5	17	12.5
18	3990 UUUM	66.0	20	16.5	17	12.0
19	9270 パリエンスホールディングス	65.6	18	17.2	15	12.0
20	4816 東映アニメーション	65.5	15	16.0	19	9.6
21	2484 出前館	63.9	23	15.1	21	12.8
22	7048 ベルトラ	62.4	18	14.4	22	11.6
23	7779 CYBERDYNE	58.0	22	12.0	27	10.4
24	3993 PKSHA Technology	57.3	24	13.8	24	10.8
25	6890 フェローテックホールディングス	56.5	25	14.4	22	8.0
26	4385 メルカリ	56.4	26	12.7	26	10.8
27	2362 夢真ホールディングス	51.5	28	13.5	25	10.0
28	4592 サンバイオ	47.7	27	11.2	28	8.4
29	4425 Kudan	46.5	29	9.0	29	9.7
	評価対象企業評価平均点	67.24		16.62		12.03
				10.70		3.23

2020年度評価項目および配点(新興市場銘柄)
【評価対象期間:2019年7月～2020年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (35点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 [1点～15点の整数で評価]	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]	5
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (25点)	配点
(1)決算説明会、インタビューにおける開示	
①当期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
②中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～5点の整数で評価]	5
3. フェア・ディスクロージャー (15点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトに、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (20点)	配点
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(2)経営機構、経営資源および内部統制について	
・経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (5点)	配点
①ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか。（前年7月から本年6月までの間） [1点～3点の整数で評価]	3
②上記以外の非財務情報の開示に取り組んでいますか。	2

新興市場銘柄専門部会委員

部 会 長	古島 次郎	大和証券
部会長代理	渡辺 真理子	UBS 証券
	新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	岩本 誠一郎	アセットマネジメント One
	久保田 侑	野村証券
	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
	納 博司	いちよし経済研究所
	東田 暁	野村アセットマネジメント

評価実施アナリスト（73名）

相原 佳奈子	三菱 UFJ 信託銀行	関根 哲	大和証券
赤羽 高	東海東京調査センター	高田 穰	三菱 UFJ 国際投信
新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	谷林 正行	QUICK
井槌 紗也	第一生命保険	田村 真一	極東証券経済研究所
今井 恵介	第一生命保険	寺島 正	大和アセットマネジメント
今津 拓洋	アセットマネジメント One	富田 展昭	極東証券経済研究所
岩本 誠一郎	アセットマネジメント One	豊田 博幸	QUICK
内生蔵 菜々	クレディ・スイス証券	鳥居 彩	野村アセットマネジメント
江上 誠	三井住友トラスト・アセットマネジメント	長尾 佳尚	野村証券
大浦 裕太	第一生命保険	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
大澤 充周	いちよし経済研究所	中島 智也	丸三証券
大場 剛平	野村アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
大平 光行	東海東京調査センター	仲西 恭子	アセットマネジメント One
大牧 実慶	立花証券	中道 俊宏	三菱 UFJ 信託銀行
風早 隆弘	クレディ・スイス証券	納 博司	いちよし経済研究所
織田 浩史	SMBC 日興証券	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
勝木 敏徳	野村証券	畑田 真	SBI 証券
金森 都	SMBC 日興証券	林 晃弘	朝日ライフ アセットマネジメント
菅 あずさ	水戸証券	原田 大輔	QUICK
岸本 晃知	みずほ証券	東田 暁	野村アセットマネジメント
城戸 謙治	アセットマネジメント One	藤根 靖晃	ティー・アイ・タワリユ
絹川 友彦	野村アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPOアセットマネジメント
清田 涼輔	東海東京調査センター	宝水 裕圭里	東海東京調査センター
久保田 侑	野村証券	グレアム マクナルト	シティグループ証券
久保山 浩之	アセットマネジメント One	皆川 良造	SMBC 日興証券
栗原 智也	東海東京調査センター	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
古島 次郎	大和証券	宮原 直也	第一生命保険
小林 あゆみ	シュローダー・インベストメント・マネジメント	牟田 知倫	SOMPOアセットマネジメント
小林 守伸	ニッセイ アセット マネジメント	村上 宏俊	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
斎藤 佳奈	三井住友トラスト・アセットマネジメント	森田 正司	岡三証券
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐藤 啓吾	ニッセイ アセット マネジメント	山本 真以人	ニッセイ アセット マネジメント
佐野 滉介	第一生命保険	吉田 純平	野村証券
清水 康之	QUICK	若尾 正示	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
清水 俊宏	アセットマネジメント One	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント
蔣 茜菴	モルガン・スタンレー MUFG 証券	渡辺 真理子	UBS 証券
鈴木 崇生	大和証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。